

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一15:42～49 「復活のからだⅡ」

[42-43]「死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされ、」

朽ちる、卑しい、弱い、というのは今の人間のからだの特徴。朽ちない、栄光あるもの、強いもの、というのはやがて与えられる復活のからだの特徴。

[44]「血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです」

ここは御霊に属する復活のからだがあることの力強い宣言。血肉のからだとは、弱り、衰え、朽ちていく今の私たちの肉体のこと。しかし、やがて私たち信仰者が死から復活する時には全く新しい御霊のからだを与えられるのである。

[45]「聖書に『最初のアダムは生きた者となった』と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました」

パウロはここで創世記2:7を引用し、「最初のアダム」が神からいのちの息を吹き込まれて生きた者となったことを教える。そして次の「最後のアダム」とはイエス・キリストのこと。最初のアダムは神が取って食べてはならないと言われた木の実を取って食べてしまったために罪を犯し、彼以降の全人類が罪ある存在となり、世界はのろわれたものとなった。→創世記3章 しかし人となってこの世に来てくださった神の御子イエス・キリストは最後のアダムとなってすべての人の罪を贖われ、最初のアダムの失敗をつぐなってくださいました。→ローマ3:23～24、5:18～19 最後のアダム、イエス・キリストが「生かす御霊」と言われているのは、44節で言われている「血肉のからだ」と「御霊のからだ」の対比のゆえであろう。血肉のからだはアダムに属するからだであるが、復活のからだは御霊に属するからだである。それゆえ最後のアダムなるキリストは生かす御霊となられ朽ち行く、卑しく、弱い血肉のからだを御霊に属するからだによみがえらせてくださるのである。→Ⅱコリント3:17～18、エゼキエル37:1～14

[46]「最初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものは後に来るのです」 これは歴史的、時間的順序のことを言っている。

[47]「第一の人は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人は天から出た者です」

ここでは起源の相違が言われている。キリストは土で造られたアダムとは違って、天から、すなわち父なる神のもとから来られたひとり子なる神なのである。

[48]「土で造られた者はみな、この土で造られた者に似ており、天からの者はみな、この天から出た者に似ているのです」

ここでは性質の相違が取り上げられている。アダムの子孫はみな罪のうちにあり、罪のうちに歩む。しかし、イエスを救い主と信じる信仰者は、みな新しく造られた者となり、罪を悔い、新しい歩みをする。→Ⅱコリント5:17

[49]「私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです」

私たち信仰者も現在、土で造られた者（アダム）のかたち、肉体を持っているが、やがてイエス・キリストの再臨の時には天上のかたち、御霊のからだ、復活のからだを持つのである。その日を待ち望みつつ、私たちは日々の信仰生活に励まなければならない。

最後に I ヨハネ3:2、ピリピ3:20～21